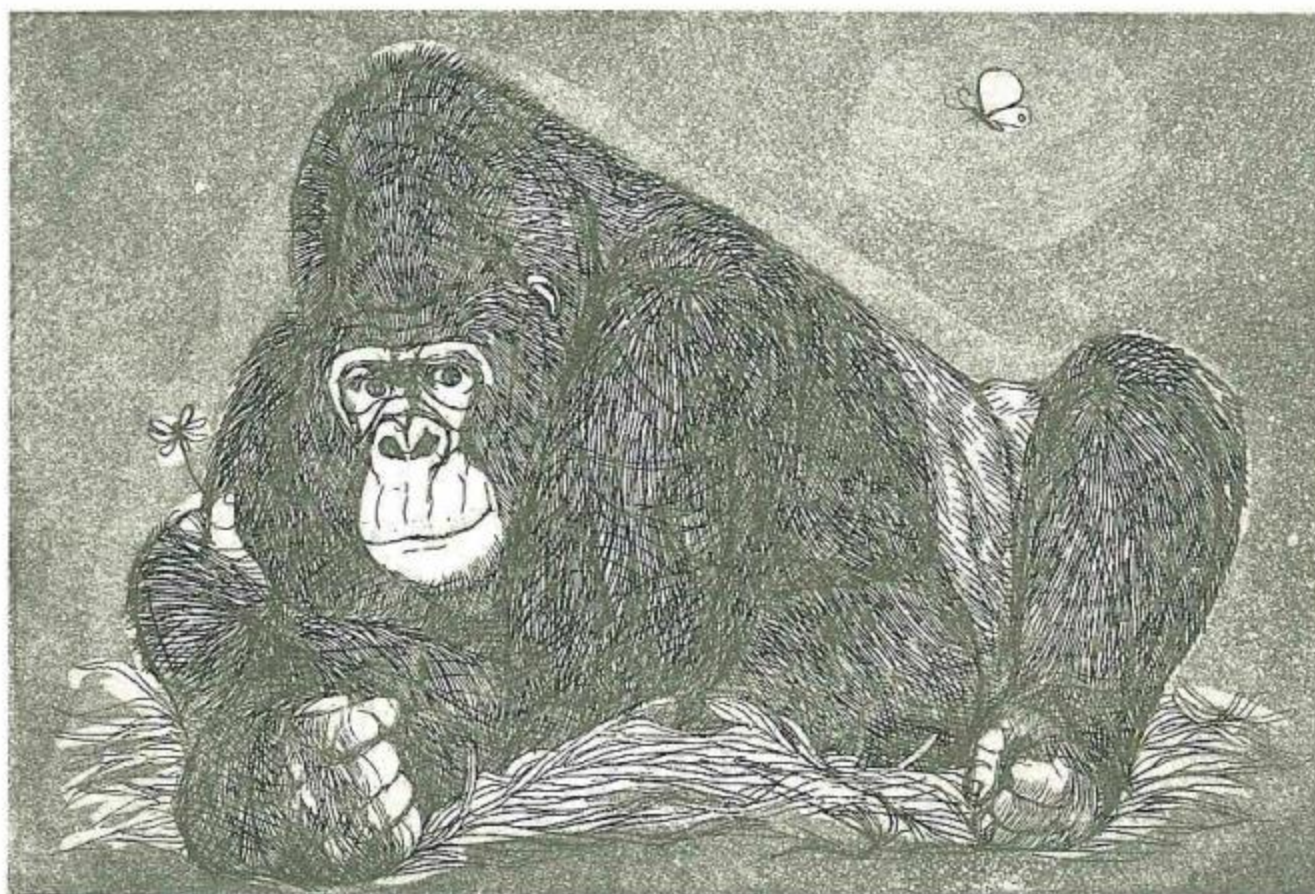


筆山

第18号 / 1994・7

土佐中・高同窓会 関東支部会報 編集人/藤宗 俊一(42回)

〒106 東京都港区西麻布1-8-19-3F 六本木司法書士合同事務所気付 ☎03-3470-1055/FAX03-3470-1425



Chisato A

『ブルブル』—— 阿部 知暁(51回)

キメラに会えないか

キメラというのは、頭は獅子、胴体は山羊、尻尾は蛇から成り、それぞれの部分にある口から火を吐くというギリシア神話に出てくる怪物で、最後は天翔ける天馬ペガサスに跨がったベレロポンに退治されるといふ悪役である。

小さな妖精ともいわれて、可憐さが売り物のセントボーリアの中で、とりわけ人気の高い模様鮮やかな花が、いつの頃からかキメラと総称されている。いささか戸惑いを感じたものの、異なつた色あいが醸し出す、ただものではない妖しい魅力を表しているといえようか。

人間の世界に目を移してみると、多彩・多面的能力と行動力を発揮したマルチ人間土佐の先人坂本竜馬は、名前も竜と馬とで、まさしくキメラではなかったか。

五十年まえの学徒出陣を経験した世代にとって、自らキメラになどとは今更思いもよらないことながら、同窓の集いの中に、自分にはないキメラの影を求めることは、秘かな楽しみのひとつである。

キメラに会えないか……。

同期生



気心の通い合う友と

16回 吉澤 信一

「筆山の麓、鏡川の畔……」
開校記念碑文が刻まれた玄関
脇の大きな石碑を見上げてい
た昔日を、今も懐かしく思い
起こします。

私どもの卒業は昭和15年3
月となつていますが、実際は
当時の学制により、14年に卒
業して旧制の高等学校へ進学

39回生・卒業30周年記念同期会(5月・高松)

した者が多数い
ました。名簿の
人数は総勢27名
です。

そして歳月が
流れ、ある時期
から約半数の者
がここ首都圏に
居を落ち着けま
した。そのよう
な仲間の親睦の
世話を身惜し
まずやってくれ
ていたのは田村
圭司君(文卒)

でしたが、彼は
早々とこの世を
去ってしまった
した。私もは
上記の開校記念
碑が建つた頃(大正12年)に相
前後してこの世

に生を享けた者たちです、
何人かの友は既にこの世を去
りました。それでも古い卒業
生の中では同窓会の中では、
私共16回生は割合と出席率が良い
方ではないでしょうか。今
の世話役は皆さん良くご存じ
の曾和純一君(法卒)です。
会合等で良く顔を合わせるの
は島内淳君(法卒)・伴衛君(工卒)
・浜田博之君(医卒)そ

れに私(工卒)などです。こ
のところ特別の会合はしてい
ませんが、何かあるとお互
いに連絡をとりあつて、自ずと
集まってくると思し上げて良
いでしょう。

個々人はそれぞれ個性豊か
な過ごし方をしています。私
共の友人は強力な個性が必要
な政治家の様な世界には不向
きですが、家族共々、お互い
に気心の通う友として、長い
付き合いを保つていきたいと
思っています。

平均寿命を越えよう

20回 久保内 貞行

20回生は30人だったが現存
してゐるのは高知4名高松1
名、大阪3名、東京8名の16
人である。

満年齢で67才前後ともなれ
ば、半分以上元気で居られる
事はやはり喜ばしい。一年毎
に高知、大阪、東京と場所を
変えてのクラス会も、この8
年前より止まつており、復活
したいと思つてゐるが……。
皆、夫々に元気でゐる事は、
又会う事が出来るといふ事。
お互いに身体をいたはりつつ、
平均寿命以上に、有意義に元
気で生きたいと思ひ乍ら頑張
つてゐる。

クラス誌発行

30回 中城・浅井

30回生Oホームのクラス誌
『うきぐも』15号を、このほ
ど発行しました。創刊は昭和
28年7月(高校二年生)で、
受験勉強と両立しながら？卒
業までに4号を発行。その後
の発行の間隔は開いたものの、
入学・就職・結婚・子供の進
学など、人生の節目にみんな
の消息を確かめ合いながら、
全員が協力しあつて続けてき
ました。今回の全員アンケー
トでは「孫の数」が入つたの
も年相応と云うべきでしょう。
尚、30回生ではKホームで
もクラス誌『一つの流れ』を
出しており、次回発行は年末
の由。ご希望の方はご連絡下
さい。

お酒は少なめでも

31回 島崎 睦美

昭和49年5月、有楽町『二
ユー・トーキョー』に80人も
の31回生が集まり、あちらこ
ちらで18年ぶりの感激の対面
が見られました。関東地域の
同期会のスタートです。以来、
年一回のペースで続いています。
この会が始まつたのは松
本祐一(〇)さんのご尽力に

よるもので、数年間は彼がず
つと面倒をみてくれました。
その後、クラス毎の持回りとし、
昨年は秋沢(S)さんの
世話で、明治記念館に三十数
名が集まりました。

若い頃の同期会は、やたら
酒を飲んで酔っぱらい、くだ
を巻く風景が見られました。
(土佐酒蔵の皿を割り、出入
り禁止になったことも……)
が、最近は諸氏の酒量も減つ
て、程良く酔い、カラオケと
談笑、校歌斉唱でお開き……
と行儀の良い会合になつてい
ます。尤も、これは参加する
女性への配慮からかもしれま
せん。そのかわり、殿方だけ
で、毎月第三水曜日に『三水
会』と称する飲み会を開いて
メートルを上げてゐる様です。
又、平成元年よりゴルフ会を
年二回行なつてゐます。気の
おけない者同士の楽しいゴル
フで好評とか。(番付参照)
そろそろ会社等で定年を迎
える年齢となりました。老後
は故郷で……と考へてゐる人
も何人かいるようです。今年、
ひとりUターンしました。高
知にいる老親のこと、定年後
の自分達の事、男性だけでは
話題になりにくい話が同期会
の席で交わされるのは、やは

五十を越しても

5月14日、土佐酒蔵にて同期会をしました。出席者は14名。卒業以来初めての人もあり、土佐料理を食べながら、しばしの懐旧談。Nさんは新宿・青梅間43kmを飲まず食わずで完歩したとか、Kさんは現在献血40回目で百回の献血を目指しているとか、「五十の大台に達してもまだまだ若いもんには……」と自慢話も飛び出し、夜が更けるまで旧交を温めました。

一時間早めに終了

「四国の谷か、関東の窪田か」と言われた無類の世話好き、外面の良い谷君が六年ぶりに転勤・上京して来た。早速、関東の窪田エールを送り

歓迎会を兼ねて同期会と相なった。と、表面はこうであるが、実は33回ながら3を二つ合わせりや8になると、すっかり38会が気に入り、同期会、ゴルフコンペの常連となって若返ったつもりテレビノおじさんことM氏が連日しつつく「いつやるろう？何なら自分が」とまでの熱心な働きかけがあった。結局4月23日同期会、翌日ゴルフと決まったが、当日奥様の法事を予定していたM氏は言い出しつべの手前もあり、法事を変更する羽目になってしまった。一方、37回のK氏、「Mさんが出るなら是非自分も」と飛び入り出席。M&Kを加え38会は賑やかに開催。M氏は「あの人誰やろ、何ホームやったかねえ」で済んだが、K氏については「今度は誰先生呼んだが？」と言われ、K氏は余りのシヨックに浴びるほど酒を飲み寝込んでしまった。

38会は時間が長く、且つ、大酒を飲み、特に女性が帰らないことで有名だが、この日も四時〜十時半。それでも翌日のゴルフを考えて一時間早めに終わったが、飲み屋の親父がこの日の為に新しく購入した超大型冷蔵庫のビールを

空に於ける閉会であり、28名中、脱落者が一人（いわき市より参加の甲藤君）のみ。

尚、M&Kとは宮川（酒嫌い）、川添（酒好き）の両氏。

同期会をしました

41回 三宅ヨシノリ

5月21日、代々木の新日鐵新山谷寮で四十名ほど集まりました。高知から正木先生（退職）をお迎えし、二次会まで盛り上がりました。

ステキなおじ様バツカ

44回 黒田 真理子

6月の梅雨の合間に25年ぶりに長崎から学会（何のだ？）で出て来た須貝君と銀座で飲む。20年間「いらつしやいませ」しか能のない私は学会と聞くと尊敬の眼差しで見つめてしまったりする。25年もたつと他の同級生の消息で盛り上がる。「あいつ何しゆう？そればつか。サントリーピアホール、オパカパカ。じゃんけん勝つとビール只！彼5連勝、私5連敗。私の人生そんなもの。すねてみたとして二日酔い、やつぱり銀座で「いらつしやいませ」……。

その約1ヵ月前、関東地区の同期会があり、約30名が集

同期会をしました

41回 三宅ヨシノリ

5月21日、代々木の新日鐵新山谷寮で四十名ほど集まりました。高知から正木先生（退職）をお迎えし、二次会まで盛り上がりました。

ステキなおじ様バツカ

44回 黒田 真理子

6月の梅雨の合間に25年ぶりに長崎から学会（何のだ？）で出て来た須貝君と銀座で飲む。20年間「いらつしやいませ」しか能わない私は学会と聞くと尊敬の眼差しで見つめてしまつたりする。25年もたつと他の同級生の消息で盛り上がる。「あいつ何しゆう？」

初めての同期会

57回 勝木田 泰子

5月の最後の土曜日、初めての同期会が行なわれましたので、ここにお知らせ致します。

パワー、仕切り度共にNo.1を誇る西森さんの努力で13人のメンバーが勢揃いし、飲・食・声（だん）とつ由紀子さん

です」に自信のあるメンバーのおかげで、青山にあるお店はすっかり土佐の居酒屋と化してしまいました。

そんな中で、「ねるとん紅鯨団」というお見合い番組に出場したという関口君は惜しくも？一番人気の女性に交際を申し込んで、見事に振られてしまった」と、高知医大病院からの研修で上京している邦子さんが暴露しておりまし

そんなこんなの宴たけなわの中、惜しくも私は退散せざるを得なかったのですが、その後恐ろしくも土佐流に盛り上がったメンバー7人は下北沢へとなだれ込み、カラオケBOXでこれでもかと爆発し夜が明けて家に帰りついたとか。なんとともパワフルな第一回目になったそうです。あーうらやましい。

尚 57回生で「東京にいるぞう」という方々、ぜひ西森さん(TWIN'S 3408-6975)まで連絡下さい。

《編集部より》勝木田さんは「突然来ちやつた」そう
で、お酒も飲めないのに同期
会に行つて下さつたそうです
ご苦勞様でした。

関東支部だより

●新年総会 1月8日

松が開けたばかりだというのに、サンケイホールに二百名以上の同窓生が集結。龍尾先生の記念講演の後、多数の来賓の方々と共に懇親会。事務局移転という支部始まって以来の大転機を迎えた同窓生活動の更なる発展を祈念した。

●関東支部活動報告

1月22日広島支部総会に鶴和事務局長出席

1月22日関西支部総会に宮地支部長、溝渕幹事長出席

2月5日東海支部総会に溝渕幹事長出席

3月20日柔道部全国大会出場
激励会に役員出席

母校だより

学校長 森田幸雄
入学式や始業式が行なわれたのは春爛漫の候でしたが、土佐路は早、夏の気配となりました。母校も中学二五一名、高校三〇四名(内他中学出身

3月21日同窓援

4月20日筆山編集会議

6月16日筆山編集会議

●平成六年東大入試結果

(事務局調べ)

進学状況 ()は昨年度

北大1 (3) 東北0 (1) 東大5 (6)
早大26 (42) 慶大10 (29) 東工2 (2)
中央8 (19) 東理13 (23) 一橋3 (0)
明治8 (18) 立教2 (6) お茶1 (1)
青山10 (10) 日本16 (28) 上智9 (6)
名大3 (1) 阪大8 (10) 京大1 (5)
同志社・関学・立命・関西71 (87)
神戸1 (7) 高知34 (29) 高医10 (7)
九大3 (2)

●平成六年入試結果

5月12日現在六一九名、
一八五万七千円。未納の方のご協力宜しく願います。

者五四名)の新一年生を迎え、生徒全員決意も新たに、校風の更なる振起を目指し研鑽に取り組んでおりますので、どうかご休神をお願いいたします。さて学期当初の対外行事としては、吹奏楽部恒例のスプ

リング・コンサートが4月末、県民文化ホールで開催され大好評を博し、幸先よいスタートとなりました。人事関係では龍尾良雄教諭を情宣業務担当の教頭として任命いたしました。新教頭については、高校野球部の前監督ということ

より、長期対策に取り組み、生徒諸君の志望達成、それもワンランクアップの現役合格を目標に全力投球の決意であります。ご協力賜りますよう心からお願ひ申し上げ学事報告といたします。

本部だより

●幹事長 岡内紀雄 (34回)

●平成六年総会日程

今年度の総会は8月6日(土)高知新阪急ホテルにて開催致します。午後3時から総会、4時30分から記念講演会、講師は三菱電気相談役・進藤貞和氏(3回)、5時30分から懇親会の予定で準備を進めております。皆様方多数のご出席をお待ちしています。

●会員名簿の発行計画

同窓会会員名簿は5年毎に発行しており、来年が改訂の時期にあたり、来年総会までに発行したいと思っております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

●三省懇談会開催

学校(校長・教頭他)と振興会と同窓会の役員との懇談会が、5月27日に開催されました。今春の大学合格状況の反省をふまえ、過去の他校との比較分析を交えて、土佐高

のあるべき姿についてそれぞれの立場から意見交換を行ないました。同窓会としては学校に対して「学力の向上に積極的に関わり、進学校たる土佐高の威信を回復するため」に先の母校活性化に関する提言の取扱いを含め、危機意識をもった学校経営がなされるよう「要請致しました。

東海支部だより

事務局長 南毅一 (37回)

春すぎて、夏来たるらし東海の地「日本のヘソ」より、本年4月よりスタートの新役員をお知らせします。長年にわたり当支部の発展と組織化に貢献されました支部長の水谷昭氏(22回)と会計監査担当の福永康身氏(28回)がそれぞれ顧問に就任されました。

●新役員就任の報告

支部長 松崎 正雄 (28回)
名古屋見本市協会理事、事務局次長の要職。同窓会の必殺仕事人。

幹事長 下山 貢男 (32回)

貫禄良し、声良し、場所良しの名古屋駅すぐ近くの陶器屋の親父。

副幹事長 竹原泰明 (36回)

目下充電中。引続き、火の車の会計を担当。

幹事 村山 文世(41回)

夢の特効薬を求め研究の
毎日の製薬会社のエリート
サラリーマン。土佐弁健在
なり。

会計監査 二神良太(33回)

独断と偏見で任命、就任
の一言。「ワシヤ何したらエ
エが」。頑張れ好男子。

事務局長 南 毅一(37回)

長の名を頂いたものの、
『使い走り』。毎日が楽し
ければ良いとする楽道家。

柔道部全国大会出場

浅井顧問、窪田
副幹事長、鶴和

3月20日、盛岡の前夜祭と

いうのか、ともかくめでたい
というので会場となった新日
鐵の寮に行く。座敷に座って
いるOBたちの顔ぶれが、日
頃見慣れている顔と違つてと
にかくイカツイ。そして体が
太い。怒られるかもしれない
が映画でみる山口組か何かの
寄り合いのような雰囲気であ
る。今日はおとなしく静かに
飲むことを誓った。

出席した四十名程の中には
高知から応援に駆けつけた父
兄、孫の声援に飛んできたお
じいちゃん。後援会会長、監
督など。支部からは在京の柔
道部OBのほか、溝渕幹事長、

以上、たいして変わりばえ
いたしません、小世帯、新
支部長のもと協力一致誓ひし
ております。

広島支部だより

事務局長 小島一洋(31回)

●10月2日より第12回アジ
ア競技大会が開催されます。ま
た競技の他にも『国際アニメ
ーション・フェスティバル』
や『広島オペラルネットワークス』
等の文化行事も行なわれます。

事務局長など。

みなそれぞれの思いを込め
て明日の試合に賭ける熱意を
語りはじめると、酔うほどに
声も大きくなった。全国大会
出場という快挙をホントに喜
んでいるさまが、ひしひしと
伝わり、しみじみとした感動
に打たれた。

翌日の試合は朝九時からの
団体戦。武道館に応援に駆け
つける。相手高の選手の体の
大きいこと大きいこと。土佐
の前にまるで岩のように立ち
ふさがる。必死の声援もむな
しく十六分で勝負はついた。

《一回戦》

京都大谷高13人残1土佐高

足の裏から ④

馬にけられて

川崎製鉄ブラジル支店長

38回生 戸田 博之

十八年前リオに最初の駐在
で来た時、ブラジル人の交通
規則を守らないのはとにかく
驚いた。日本では人も車も
交通規則を守る。あるいは守
らなければならぬと大抵の
人が思っている。ニューヨーク
に駐在していた時には、アメ
リカでは車は規則を守るが
人は守らないと自分なりの結
論に達した。ブラジルでは人
も車も規則を守らないのが当
り前である。

赤信号ではたとえ車が全然
来ていなくても渡らないのが
日本人。車の流れが一寸でも
切れればさっさと渡るのがブ
ラジル人。車から物はぼんぼ
ん捨てると、駐車違反は日常
茶飯事。スピード違反は全員
なにしろあの天才レーサーの
セナを生んだ国である。ハン
ドルを握ると皆セナになった
ような錯覚をおこしているの
ではないかと思われるほど普通

の道でもビュンビュン飛ばす。
これらはこの国の後進性の
現れと言つてしまえばそれま
でだが……。車が全く来る気
配の無い交差点でも信号が赤
なら絶対渡るべきでないと考
える日本型の思考方法と、車
が来ていないのなら赤でも渡
ろうとするラテン(?)的思
考方法と、どちらが合理的か
最近筆者もいささか迷つてい
る次第。東京へ帰った時など
赤信号でもさっさと渡つてし
まうので、やはり朱に交われ
ば赤くなる。

数年前の話だが、日本の駐

在員が郊外を運転中に突
然飛び出して来た子供を
撥ねてしまった。何メー
トルか撥ね飛ばされた子
供は道端でびくりとも動
かず倒れたまま。あま
りの事に気も動転して金
縛りに会った状態。音を
聞きつけてゾロゾロと集
まった付近の住民に車を
囲まれて、リンチの恐怖
で今度は真青になった。
住民の一人が「窓をあけ
ろ」とガラスをしきりに
拳で打つ。震えながら窓
を開けた彼に、その住民

が言った。
「セニョール、車は大丈夫か
い?」

飛び出して来るのは子供だ
けとは限らない。郊外を走れ
ば馬や牛にぶつかることもあ
る。駐在員二人が田舎をドラ
イブ中に馬と衝突。ボンネッ
トに叩きつけられた馬の足が
フロントガラスを突き破り、
助手席に乗っていた駐在員の
頭を直撃。彼は気の毒に亡く
なったが、後で皆が言うには
「Aさんは車の助手席に乗っ
ていて、馬に蹴られて亡くな
った」



馬に蹴られて死んじまへ

やってて良かった——水泳 やってれば良かった——英会話

財団法人 日本水泳連盟理事

濱崎 洸一(32回生)

昭和26年4月、雨。バラック校舎の中、所々で傘をさしての入学式。袖に輝く白線に胸をふくらませて聞く大嶋校長の祝辞……。

時代に柳原の市営プールでの学内大会以外プールで泳いだことが無かったが、我ながらビックリ、完泳者は自分を入れてたつた三人だった。

戦災でただ一つ残ったプールを中心に校舎があり、その一辺ずつをツギハギしながら二階建て新築校舎に改築されていった。プールに隣接して杉皮葺きの製材工場があり、授業中よく電気鋸のあの独特の音が聞こえてきたものである。このプールも完成した時、北村久壽雄氏(ロス五輪金メダリスト)が市商から聴講生として土佐へ来ていた関係から、泳ぎ初めをされたそうであるが、今はなく運動場の北側に新設されている。

水温む頃、水泳部入部希望者が土曜の午后、プールへ集合すると、全員が千mの泳力テストをさせられた(といっても、面白半分にはやらされた感じ)。当時はまだプールが少なく、鏡川で遊び育ち、小学

時代には相当の努力が必要であった。放課後の練習、帰宅後の予習復習、いつも途中で机に顔をくっつけていた。よく母親に叱られたものである。時には、「もうヤメナサイ!」とまで。一学期中間テストの最中、市商のプールで記録会があった。同僚の浜田成亮君が窓の外から「オーイ、一寸イカンカヤ」。さっそく、二人でプールへまっしぐら。翌日、フグ(河野)の地理がある。出番を待つ間、暗記の出来具合を二人で試したり、自分の四百m自由形を泳ぐ時、リズムに合わせて国名と首都を口ずさんだ。結果は二位、タイムもまずまず、翌日のテストは92点(後にも先にも90点台

はこれ一回)。やれば出来ると自己満足にひたり、調子に乗ってしまった。

まあなんとか落第もせずに卒業出来たし、四百mで日本中学13位にランクされたり、浦戸湾遠泳大会(約5km)も1時間11分の記録でトップ争いを演じた。高校時代は、全国大会に3回、国体にも2回出場出来た。これらの経験で途中で諦めない完泳の精神が身についたといえる。

最近生涯スポーツが唱えられるようになってきた。28回生壺坂女史も老化防止と美容維持?の為、シンクロを始め(身長が2cmも延びた)、20回生元水泳部久保内先生もゴルフに忙しいとか。同期では谷岡昌三君がスイミングクラブでコーチをしながら高知水連の役員で活躍中。浜田君は十数年の入院生活にも負けず、マスターズ大会に参加している(現在、県難病団体連絡協議会・筋無力症友の会役員)。そして、小生は現在、日本水泳連盟の理事として学生の指導に水泳界のために頑張っております。

一九九一年、英国で開催さ



今春の全国ジュニア水泳大会の表彰式にて

れたユニバーシアードに、日本選手団水泳の監督として参加した。その折、プールサイドでアン王女に話しかけられる光榮に浴した。が、この時ほど英会話の不出来を痛感したことはない。土佐中時代もつと中沢英語を真面目にやっておけばと残念でならない。

今年12月には広島でアジア大会が開催されるが、水泳競技の運営面でお手伝いすることになっている。また、来年は福岡でユニバーシアード大会が開催される。外国人と話す機会も多くなりそうであるが、不得意な会話も裸でぶつかって行こう。もともと水泳選手だから裸のつきあい……。

今こんなことをしています

⑬

思い出の先生方 ⑫ 古谷 俊夫 先生(68才)

父・古谷俊夫について

長男 古谷 博(49回生)



『旅は私にとって、精神の若返りの泉だ』(アンデルセン)という言葉があります。この言葉は父にびつたりだと思えました。父は今年の5月27日で68才になりました。江田島海軍兵学校同期の方々がいっつも土曜日集まって、2

階のバー『サンセット』において暮を打っています。父は同期の方と比べると特に若く感じられます。昭和51年私が大学生の頃、父は大病をして大手術をしました。その時には市民病院に勤務する土佐高校の卒業生や教え子の方々

昭和32年11月18日、「開校記念日」に生徒と一緒にサイクリング。先生31才、筆者2才。

世話になりに大変お世話になりました。お陰様で今日までこれといった病氣もせず、旅館組合や他業界のお世話をさせて頂いています。また国内・海外へ行くことも多くなり、父が出張(旅行)へ出る前

に『ここには何回生のA君がいる』と言って連絡すると、『先生、B君もC君もD君も集めて同窓会にします』という返事になってもどつてくるそうです。また、父は大学専攻が日本史でしたので、よく出張先で歴史探訪をしているようです。旅先でリフレッシュ出来るのが父の若さの秘訣だと思っています。

私は幼稚園や小学校の写真をみるといつも父と一緒に、母は家業(旅館)が忙しいのか、母と撮っている写真が少くないです。父に連れられてよく野球の球拾い等をさせられました。父は昭和41年に甲子園へ行つて応援したことを今だに覚えています。残念ながら、私が野球部の時は行けませんでしたが……。父は昭和44年に土佐高校を退職(昭和50年まで講師)し、昭和50年に旅館組合の理事長に就任しました。家業はやりくりが大変でしたが、昭和60年4月には老舗旅館『旭軒』の存続の為、名称を『サンライズホテル』とし、時代の変化に対応させ、平成6年2月に政府登録国際観光ホテルになりました。また、改築、新築には故岡部隆穂氏(35回)

や小谷匡宏氏(39回)など多くの卒業生に大変お世話になりました。立派な建物が出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。私は後継者として昭和60年3月末日に四国銀行を退職し、現在専務として家業に専念するかたわら母校野球部の審判にも協力させていただいています。

私から見た父の印象については

①父のニックネームがどうしてか「パンツ」だということ、私は中学へ入学すると「小パン」とつけられ、いやな思いがしました。

②人前で挨拶するのが短く、要点をまとめて話すことが上手だと思っています。

③社長と呼ぶ人より、先生と呼ぶ人が多い。教え子に信頼されている感じがします。39回生などは新年会を毎年1月2日に、ホテルが続く限りやつて下さるそうです。④リーダーとしての統率力があり、信用がある。

私は、父と同じように途中から家業を継ぐことになりましたが、父のような人物に追いつくことは難しいと思いますが、少しでも近づけるように努力したいと思っています。

いつまでも心に残るおつき合い

島崎和歌子

営業店舗

- 高知県下.....76店
- 徳島県下.....26店
- 香川県下.....9店
- 愛媛県下.....7店
- 本州地区.....11店

ぐんぐんバンク

四国銀行

本店/高知市はりまや町1-1-1 ☎(087)23-2111

近藤夫人、初甲さん亡くなる

長年同窓会の世話役を続けてこられた6回生の近藤久寿治先輩の奥さん、初甲（はつこ）さんが去る三月二十八日心不全のため亡くなられた。七十八歳。通夜・葬儀告別式は四月一日、二日、文京区白山の寂園寺でとりおこなわれ同窓生ら三百人以上が参列、冥福を祈った。

初甲夫人は、同窓会の世話をする近藤先輩の陰となつて戦後の食糧難の時代から、転がり込んでくる学生の面倒をみて、「近藤のおばちゃん」と慕われてきた。

御夫婦そろって大の世話好きで、宮地貫一支部長（21回）は弔辞で、新婚時代に居候させてもらった思い出などを述べて別れを惜しんだ。

弔辞

21回生

宮地 貫一

近藤さんの奥様、昔に戻って呼ばせていただければ、「近藤のおばちゃん」ですが、こうして今日、お別れの言葉を述べなければならぬ日が、このように早く来ようとは、思いもよらなかったことです。わが土佐中・高等学校同窓会関東支部の皆さんにとつては、もとより、大勢の御参列の皆様にとりまして、この度の訃報は、本当にシヨツキングなことでありました。

家内と話しながら、ひとまず安心したことでした。

本日、御参加の皆様方も、近藤さんの奥様には、お世話

になった方が多いことと存じ

ますが、私自身のことについ

て思い出してみますと、私が

近藤御夫妻とお付き合ひいた

だくようになりましたのは、

戦後のことで、昭和二十三年、

東京大学に来てからが、お付

き合ひさせていただいた始め

になります。当時は、物の乏

しい時代でしたが、よく、お

宅にお邪魔して御馳走になり

ました。東大泉にお住まいの

頃でしたが、よく御一緒に

方々には、先輩では、島内さ

ん、曾和さん、伴さん、光森

さんなど、後輩では、岡崎君、

野波君、山村君、木下君など

の方々がおりました。

いつも、わいわい、がやが

やと貴重なお酒を御馳走にな

りながら、夜のふけるのも忘

れてだべったり、時には、徹

夜のマージャンをするなど、

アットホームな雰囲気におま

れた集まりでした。

その後、私は文部省に入っ

たのですが、結婚して間もな

くのころ、何ヶ月か、近藤家

に下宿させていただきました。

家内を含めて、家族ぐるみ

でお付き合ひをさせていた

いておりましたが、新婚の貧

乏世帯の当時、お世話になり

ましたことは、今でも脳裏を

離れません。

諸先輩のお話も伺いました

が、島内先輩から伺ったこと

を御披露いたしますと、昭和

十八年の学徒出陣の前夜に奥

様に壮行会を開いて頂いて、

曾和さんなどと、「湖畔の宿」

を歌って旅立ったこと、そし

て終戦直後の二十一年当時、

居候しながら、同窓社の仕事

を手伝うことになったことな

ど、本当にお世話好きでなけ

れば出来ない様な御面倒をみ

てもらったことを伺いました。

昨夜のお通夜の席でも、色

々な方から、思ひ出話を伺い

ましたが、奥様は、お若い時

代は、とてもモダンで、ダン

スを楽しむなど、本当に才気

煥発で、下町のキツプのいい

姉御風とでも申しましようか、

土佐高の後輩のみならず、そ

の夫人たちのリーダーでもあ

りました。若い後輩が次から

次へと近藤先輩宅を慕って集

まってくる様はさながら、「東

大泉の梁山泊」とでもいうべ

き感を呈しておりましたが、

その原動力になったのは、他

ならぬ奥様の内助の功に負う

所が大きかったと言えましょ

う。御夫婦で喧嘩をなさりな

がらも、その実、陰では、御

主人を支えておられた奥様は、

まさに、「趣味は主人」と言っ

ておられた言葉そのもので、

本当に御主人思いの方でいら

っしゃいました。

恐らく、奥様の唯一の心残

りは、「たとえ、一時間でもい

い、主人より長く生き残って

面倒をみなければ」というも

のであったと推察致しますが、

そのことは、心丈夫なお子様

達が、これからのお父様の支

柱となつて下さることと存じ

ますので、何卒御安心下さい。

：本当に思ひ出は尽きません。

今年は、桜の開花も遅れて

おりましたが、ようやく、つ

ぼみもほころぶようになりま

したときに、お別れをしなけ

ればならないことは、本当に

悲しいことで、残念でなりま

せん。

いつの日か、また、天国で

昔と同じように、にぎやかな

談笑の輪が広がることであり

ましよう。

近藤さんの奥様、安らかに

おやすみ下さい。

さようなら……。

平成六年四月二日

近藤夫人を偲んで

23回生

岡崎 昌生

さる五月二十二日、故近藤初甲さんの七七忌法要が、小石川・同学社のすぐ近くの近藤家菩提寺龍閑寺でいとなまれました。

はやいもので、三月末奥さんの突然の訃に接してから四十九日を経過、読経の間にも奥さんの生前のいつもの明るい笑顔を想い出しながら、大変お世話になったこと、いろいろとご迷惑をおかけしたことに礼とお詫びの念で焼香させていただき、墓前にご冥福をお祈りした次第であります。

顧みますと、近藤さんそして奥さんにはじめてお目にかかったのは、一九五〇年（昭和二十五年）四月のこと、高知からはじめて東京に出てきたときでした。今から四十四年も前になります。

同窓会の春の集いをやるということになり、学生幹事の宮地貫一さん（21回）、北村正志さん（22回・故人）につれて、早速、同窓会の元締めである茗荷谷の同学社にお伺いし、いろいろと打ち合わ

せをし、奥さんの手料理でお酒となりました。

この時の奥さんの作られた酒の肴のおしいかったこと——当時は、戦後未だ食糧事情も好転せず、特に、下宿住まい、外食食堂通いの貧乏学生にとつては格別のご馳走でした。このとき、オバさん（失礼ながらこれまでの呼び方で）は、ハッキリした東京弁いや標準語で、新入りの私に同窓会のこと、東京のことなど話してくれました。土佐弁もわかってもらえるし、美人で料理も旨い、東京には「えらい嫁さんが居るもんじゃ」というのが第一印象でした。

今から勘定してみれば、オバさんはまだ三十代前半の若さであつたわけで、康江ちゃん（近藤さん長女・長峰道治氏夫人）は幼稚園、そして孝夫さん（長男・同学社専務取締役）は、この年の秋誕生されました。

さて、その時の同窓会ですが、たしか、五月十四日の日曜日と記憶しておりますが、小石川の植物園の野外パーティーを行いました。参加したのは六十人ばかり、夫婦同伴、なごやかな愉快な集まりでした。当時は、まだ酒の不自由

な時代、先輩のツテを求めて調達し、料理もまた近藤さんご夫妻のお世話により、つつがなく会を開くことができました。

その会のザンもまた茗荷谷でやりまして、はじめから終わりまで、近藤さんご夫妻のお世話になったわけであります。

（ちなみに当時の同窓会関東支部は全員で一〇〇名ぐらい、最年長の一回生の方、当時私にとつては相当のオジさんに見えましたが、年齢は四十三、四歳といったところでした。現在の同窓会からみればまさに隔世の感があります）

当時、近藤さんは大泉に住んで居られました。大泉にも、茗荷谷↓池袋（駅の近くの「おていの店」で小休止、といったも中継の酒）經由↓大泉へとたびたびおじゃましました。そして、酒、深更に及ぶ家庭マージャンなど楽しませていただきました。

そして、その当時のオバさんの手際のよい料理、また朝のツケモノも忘れられない味です。

その後、ことあるごとに茗荷谷や大泉のお宅におじやまし、私自身、下宿の変わり目

などしばらく居候をさせてもらったり、今から思えば汗顔の至り、何とお礼お詫び申し上げてよいかわかりません。

また、「まんじゅう会」の発足も大泉であります。当時、島内淳さん（16回）、伴正一さん（17回）も大泉に居を構えて居られました。島内さん、曾和純一さん（16回）、伴さん、光森正さん（20回）、宮地さん、北村さんとそして私、歴代学生幹事が、御徒町で売っていた一個五円のまんじゅうを食べながら、世の中いかにあるべきかなど自由な話し合いをしようとき々集まったもので

す。後から野波博泰さん、山村泰造さん（26回）も参加しましたが、この会も大親分は近藤さんであり、かつこれを支えていただいたのが近藤のオバさんでした。

近藤さんご夫妻には半世紀以上にわたり、土佐中・高同窓会関東支部の要として大変なご面倒をおかけしたことであり、今そのお一人を失ったことは痛恨の極みであります。近藤のオバさん、やすらかにおやすみ下さい。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

清譽敬応浮喜大姉

南無阿弥陀仏

龍馬も、鯨も待っている
ふるさと高知

暮らしいきいき、ビビッドバンク

 **高知銀行**

東京支店 中央区八重洲2-6-21 (電) 03-3273-3061



バラの木会

51回生 中村 哲

「べっぴんやのう」「飲みゆ
うかや」そんな言葉とともに
大杯が飛び交う『バラの木会』
を紹介します。

バラの木会とは土佐高OB
で石油産業に携わる者が親し
く「飲む」「打つ(ゴルフ)」「歌
(か)う」に力を入れている会
です。メンバーの勤務先も石
油精製、販売はもちろん石油開
発、エンジニアリング、商社
など多種多様で現在22回生の
前田氏(太陽商事)から61回
生の筒井美智さん(ジャパン
石油開発)まで集う同僚計44
名となっております。

当会の母体は泉谷氏(三菱
石油・29回)、中村氏(三菱石
油・30回)、弘瀬氏(ジャパン
石油開発・37回)、吉村氏(三
菱商事・39回)などによる小
人数の飲み会でありましたが
「一度東京における土佐高出身
の石油関係者で集まってみた
らどうぞよ」という泉谷氏の
音頭で二年前の三月、東銀座
の土佐酒蔵で第一回バラの木
会を開催しました。当初の参
加者は約15名でしたが、その
後数回にわたる飲み会やゴル
フコンペなど懇親を重ねるに

つれ参加者も多くなつてきま
した。

大先輩の方々はもちろん若
い者もさすが土佐高のOB、
鯨のような飲みっぷりと豪快
なシヨット、その雰囲気盛
り上げるネイティブの土佐弁
ということ、オダをあげて
おりました。

しかし、この度、泉谷氏が
めでたく三菱石油(株)の社長に
ご就任されることになり、一
躍、一流企業の社長を輩出す
るという格式高い会?となり
ました。泉谷氏は戦国武将さ
ながらの風貌に剛胆な性格、
仕事も懸命にまた酒と美女が
世界で一番好きとまさに土佐
のいごっそうであります。そ
の泉谷氏が去る三月十五日、
バラの木会の会合で話された
ことからその要点を披露させ
ていただきますと、

(問)バラの木会の名前の由来
は? (答)土佐高時代、皆があ
こがれちよつた酒井芳美さん
(28回生)というマドンナが
おつて、銀座に「酒蔵の森」
というバーをひらいたつた。
そこへわしらがいちよつた。
いきよつたことと、油蔵(石

油関係者のたとえ)はバラの
木に集まることからこの名前
をもうけたがぜよ。(本音:
本当は酒井さんは西山五朗さ
んへ28回・三菱油化の初恋
の人ぜよ)

(問)バラの木会の参加資格は
? (答)資格は特になければ
男は土佐高出身で油に何かち
よつとでも関係しちよつたら
ええ。女性は無資格やき世界
の半分は参加資格があるちゅ
うことぜよ。(本音:こんな
ことを言うてしもうたけんど
本当は若うてベツピンがえい)

(問)バラの木会の目的は?
(答)わしやーあんまり闊を作
るのには好かんが、酒が美味し
ゆう飲めてゴルフが楽しゆう
できたらええと思うちゅう。

(本音:第一回バラの木会ゴ
ルフ会ではわしが優勝しよう
と思うちよつたに吉村氏が優勝
して次の幹事もせんとクアラ
ルンブルへ行きよつた)

(問)最後に持ち歌は? (答)野
風増へ歌いし生意氣くらいが
ちようどいい、飲むうどう、
飲むうどう、男は酒を飲め、
(お体に気を付けて下さい)
とこのようになります。が
雰囲気は分かっていただけまし
たでしょうか?

こんなバラの木会ですが、

元来「梓」とらわれない土
佐人のこと、会社、系列を超
え日本の産業の米「石油」の
安定供給に寄与したいと考え
ております。

筆山会だより

懇話会へのお誘い

一、八、九、十二月を除
く月の第三木曜日、正午か
ら約一時間、同窓による昼
食会が開かれています。場
所は地下鉄日比谷駅真上の
便利なところ。参加者を募
っています。お気軽に御参
加下さい。連絡費などの年
会費は三千八百円。

詳しくは、筆山会事務局
(日本テクナート内
TEL03-3313-7251)まで

第24回 筆山会ゴルフ(5.26)

大雨の中、上位4人が同ス
コアとなる大接戦。規定によ
り年齢順に順位を決定。鳥取
から参加の千原氏が初優勝。

《優勝》千原 宏(30) 99 18 81
②・BG小松(33) ③八井田(34)
④窪田(38) ⑤北岡(5) —
宮地(21) 前田(22) 近澤(26) 福
本(28) 小路(29) 大町・浅井・原
新階(30) 吉野(31) 上田(32) 宮
川(33) 中村(35) 谷・高田・永

野・三宅(38) 小松・横原(41)
次回は北岡会長の予報を基
に10月11日の快晴日に開催。
参加希望者は宮川まで。

近況報告

●20回 久保内 貞行

その昔の秦の始皇帝の有名
な話を持ち出すまでもなく、
若返り老化防止の薬はないと
いうのが現在の通念だが、こ
こ5年前より私は、それに極
めて合目的の注射を開発研究
してゐる。残念な事は、何と
いふ検査をして、その値をど
う判読すればいいのかわらな
い。これさへ判れば、若しか
したらグランプリも夢ではな
いと……。

●38回 永野 博子

わけあって、この5月、中
国旅行をした。

上海、西安、北京。何なん
だろう。この人と自転車の波
リヤカー、ボロTAXI、機
械化されない人力の工事。子
供の頃、日本で見かけた懐か
しい風景だった。皆せわしげ
に、信号も守らず一生懸命動
いている。自動車と自転車と
人の絶え間をぬって、道路を
渡るの命がけだった。緊張
感の連続……。どおりで、こ
の地にデブは一人も見かけな

かった。我々の無駄と贅沢さを痛感する。

北京でランチのためにゴルフ場に立ち寄った。38回の友人に中国でよくゴルフをする人がいて、色々話を聞いていたので、食事を早く切り上げコースを見てみた。客は平日なので4組しかいない。中国女性(きつと女優かモデルであらう)が、顔中スカーフとサングラスでおおい、一人でキャディを連れてスタートしていった。広大な土地に造られたコース、安い料金、でも何か怪しさを感じた。物価高の日本で、新年会、一本会、筆山会、三八会と楽しめる土佐の人間である事を幸せに思った。

しかし、年々発展を続けているこの大国は、三十年後きつと世界の強国になっていることだろう。そして、我々一行は万里の長城から、この地が大好きであった叔父の遺骨の一部を風と共に葬り、目的を達した。 謝々!

●41回 三宅ヨシノリ

広島県出身の作家。『オイ西岡やないか、西岡やろう』『何や三宅やないか』『そうや高校時代以来やから二十年以上になるかにや』『何い

いやら大学も同じやったぜよ』平成元年の夏の盛り、広島は大手町の三菱地所の新ビルの前でこうして西岡恒憲君(41回)との再会がなされた。

この月新会社を設立。同じビルに彼の会社(キャノン販売)も新入居していたのである。爾来、本年三月に会社を閉じるまで四年十月に亘る広島生活が始まった。前半の二年五月は出張によるホテル住まい、後半二年五月がマンションでの単身赴任生活となった。

広島においても土佐高同窓会は支部長の岡村さん(30回)、事務局長の小島さん(31回)のご努力で大変家庭的な雰囲気のもと、年二回の集まりがあり単身赴任の小生にとって大変楽しみな会合でありました。東京からも竹村先輩(20回)が必ず出席されるのも成る程と思わせます。更に私にとつては、同期の小松正伸君(安佐市民病院)、田中達美君(資生堂)、沖田道子さん(広島シーサイド病院)そして前出の西岡恒憲君の五人組での折々の集まりを持つことが出来ました。殊に昨夏の広島湾を臨む沖田邸での家族そろって(小生は単身)のバーベキュー

パーティーは大変楽しく忘れられない思い出であります。広島での土佐高会の方々殊に同期の四人のメンバーに赴任中お世話になった感謝の意を込めて筆をおきます。

●31回 小島 一洋

関東支部の皆さん今日は、第12回アジア競技大会の開催が間近に迫った広島からお便り致します。首都以外の地方都市開催は初めての大会です。



今年10月2日から16日まで、アジアの43の国と地域から約七三〇〇人の選手と役員が参加するスポーツの祭典に、陸上競技、水泳、アーチェリーなど三四競技、三三七種目の熱戦が繰り広げられます。また、これらスポーツ競技のほか、文化・芸術の交流が図られるよう『国際アニメーションフェスティバル』や『広島オペラルネッサンス』等の芸

術祭典も行なわれます。更にアジア大会を契機として、21世紀にむけての新たな都市作りを目指して『広島新世紀都市ヴィジョン』が作られる他、平成7年の被爆50周年にむけて『ひろしまの心』を広く世界にアピールするための準備が進みつつあります。このよう

な広島環境変化は中四国の中では群を抜いた勢い持っているように思います。広島から郷里の土佐の高知つまり南には『太平洋』そして北には『日本海』その真ん中の広島には『瀬戸内海』これら三つの個性あふれるユニークな海の自然資源に恵まれた沿岸地域を日帰りで堪能できるといふ世界にも類例のないブロックが、我ら広島支部同窓生の活躍のフィールドです。経済・文化・政治の三つの領域が渾然一体となる『融合化』がこれらの地域で21世紀を目指すに新しい・力強い波となる必要があります。日本列島のみならず国際的にも『南北軸』でアクティヴィティを考えると、パフォーマンスを見てみる時代だと思えますが、関東支部のみならずのご意見はいかなるものでしょうか。『国際文化都市・広島が実現し、

出版レーダー

●39回 市川 忠彦 著

『鷹の爪への誘い』 星和書店九三年刊。二七五〇円。

●55回 森岡 浩 著

『日本人の名字』 日本実業出版(エスカルゴ・ブック)九三年刊。八八〇円。

●51回 坂東 眞砂子 著

『蟲』 第一回角川ホラー小説大賞佳作受賞作。角川文庫。五二〇円。

公演・展覧会

●49回 西 悟氏の個展

『SIGMO』 94年2月。銀座牧神画廊。『さけめ』というのは、ふつと痛みをと

もなっているとか、このひがかき傷の断面は、未来の痛みを予見しているようで、なんだか妙に甘美である。

●51回 阿部 知曉氏の個展

『ゴリラの心』 94年5月。銀座松屋。『是非、買って下さい』の案内状に同窓生多数が応え、売約済みの丸印多数。(表紙参照)

トプクオークの存在が確認された。素粒子論の発展には著しいものがある。我々が学んだ頃は、元素は原子核と電子からなり、原子核は陽子と中性子からなる。錬金術はいかさまであり、元素が他の元素に変わることはありえないという段階であった。その後、核分裂や核融合を経て、元素間の転換はかなり日常的な現象となり、陽子や中性子が更に微細な素粒子から構成されるということが解明されて、物理学はかなり究極の段階に近付きつつあるように思われる。他方、宇宙学

物理学のススメ

31回 吉野

保徳

の分野でも、新星の誕生といった現象から反陽子・反電子の存在が確認される等、極微の世界と極大の世界はその根本原理に共通なものを生み出しつつある。

NHKスペシャル『脳の科学』を見た。「電気が電子の流れであり、光が光子の流れである」という処までは我々の知識で充分納得できるが、「男が女に惚れる」という人の感情の動きですらモノの動きに還元されるらしい。些か

味気ない気もするが、いずれ生命の合成も実現しようという時代だから『物』の『理』の窮まる処、あらゆる事象が『モノ』で説明される日も近からう。

最近「国際会計基準の導入」が喧伝されている。要は我が国の企業会計を取得原価主義から時価評価主義に改めるべきだというものである。さるセミナーに出席してみたが、やれどの勘定項目を時価評価にすべきか、やれその場合の課

税対象はどの範囲にすべきか等々の技術論に終始し、根本原理の議論が欠落しているように見受けられた。時価評価による企業の価値の増分は、現在及び将来の企業関係者（株主・債権者・従業員のみな）らず、課税の立場からは国・地方公共団体、その企業が生み出す財・サービス等の消費（者等）にどう配分されるのがオプティマムかという哲学論に充分な時間が割かれねばならぬ。

最近、土佐高の同期生が集

まると決つてこの話になる。仕事でも何でもそうだが、何事ももつと根本原理に立ち帰らねばならないのではないかというのである。そのためには、高校（少くとも土佐高）で物理学を必須にすべきではないかと議論が展開する。物理学は『物』の『理』を窮める学問だから、畢竟『哲学』更には『宗教』につながる学問であらう。であつてみれば文科だ理科だに関係なく、物

理学を修めずして何の学問ぞやという次第である。これが大学で理科系学部を出た連中よりも、文科系を出た連中から声高に叫ばれるのだから面白い。そして酒量と共に「ニュートンが」「アインシュタインが」と議論は沸騰して来る。かくいう私自身も大学では法学部、土佐高時代は物理学を選択せず、受験科目は化学、生物、会社会生活のほとんどは営業畑ということであまり物理学とは縁のない生活を送ってきたが、物理学に対する興味は年と共に増すばかりである。

すきま風

●第三金曜日に豪快に飲みまくる『三金会』は、スペース関係もありメンバーは十数名にはぼ定着。それだけに「じっくり腰を落ちつけて飲める」とえらく好評。

たまに欠席が続くとエライ槍玉にあげられる。例えば仕事熱心な一氏の場合。前日の接待で飲みすぎて、下痢がひどく、突然当日欠席のはめになった。「同窓会の仕事なら肌におうちよつたがよ。慣れん仕事の酒を飲むきに、体をこわす」と酒の肴。「これではうかうか下痢にもなれん」と、ぼやくことしきり。

この会、八月には高知に繰り込んで『本部総会』の前日、盛大にやるとか。熱心なこと。

編集後記

■土佐中・高を通じての最劣等生も卒業してしまえば何の支障もなく〇十年。筆山の編集に関係するようになって状況は大いに違ってきました。

連休に高知に帰るからと、「思い出の先生」原稿依頼を安請け合したものの、昔の日々が甦り、電話一本できないまま帰宅。うんうん唸りな

がら依頼の手紙とあいなりました。原稿ちゃんを書いて頂けましたでしょうか。（内）

■酒宴を控えて教育ママに変身しているこの頃、某塾の夏期講習申し込み窓口で突然、「あら、〇〇ちゃん」と、声をかけられた。みれば大学時代、同じ釜の飯を食べた寮の仲間。何年振りかの再会に、帰り道お酒ならぬお茶気で乾杯。思えば、学生時代、彼女の部屋でコップ一杯のソーダ水に数滴のビールをたらし、微酔したのが我が酒道の始まりでした。（酒呑童女）

■毎月帰高していた仕事が終わりに暇になった頃には原稿がなく、次の仕事佳境に入ると筆山の締切が迫る。毎回、その繰り返し。童女さんが酒の席で聞いた『内容は忘れたけれど絶対面白い話』が吉野さんから届く。『エーッ』。

前号発刊の後、事務所移転、法人化、転居と大騒動の半年。発展のように見えるけれど、なんとか潰れずに十年やってきて、先が見えてきただけ。それでも『社長は社長』。このあたりが分相応では……。五年遅れで不惑を迎えた感じ。今後とも、お手やわらかにお願い致します。（藤）